

学校推薦型選抜 解答例

令和8年度

小論文

【解答欄】

問1

(設問のねらい)

グラフに表現された傾向を適切に読みとり、それを文章で的確に表現する力をみる。

(解答例)

まず注目されるのは、全体的な認知件数が年々増加していることである。たとえば、小学校では2013年度の各学年2万件前後から、2019年度には各学年5～10万件へと大幅に増加している。また、認知件数が多い学年も変化しており、2015年度までは中学1年生がもっとも多かったが、2016年度以降は小学校、特に小学2～3年生の割合が高くなっている。この傾向は年々高まっており、認知件数のピークが低年齢化していることがわかる。(198字)

問2

(設問のねらい)

いじめの認知件数が変化した理由を考察させることで、論理的かつ批判的に考え、それを文章で的確に表現できる力をみる。

(採点のポイント)

- ・いじめの認知件数の増加や学年間の分布の変化について、いじめの発生状況が実際に変化している可能性や、学校による認知のあり方が変化している可能性など、それらに影響を及ぼす背景や要因を複数の観点から合理的に考察できているか。
- ・文章が論理的かつ整合的に記述できているか。
- ・正しい表記を用いて記述できているか。
- ・グラフに表れた傾向について、現代の学校や児童生徒に関連した視点から解釈を行っているか。